

平成20年度

# 通常総会

平成20年5月16日（金）15:00～16:00

愛知厚生年金会館

## 総会次第

- I. 開会の辞
- II. 支部長挨拶
- III. 本部役員挨拶
- IV. 議 事
  1. 平成19年度事業報告
  2. 平成19年度決算報告
  3. 会計監査報告
  4. 平成20年度役員改選結果報告
  5. 平成20年度役員
  6. 平成20年度事業計画（案）
  7. 平成20年度予算（案）
  8. その他
- V. 閉会の辞

（社）情報処理学会東海支部

事務局

〒460-0003

名古屋市中区錦2-17-21 NTT DATA伏見ビル内

TEL：(052)204-4517 FAX：(052)204-4783

E-mail：ipsj\_tsj@tcp-ip.or.jp

## 1. 平成19年度事業報告

### 1.1 支部総会

平成19年5月10日(木) 愛知厚生年金会館

参加者267名 (委任状236名を含む)

### 1.2 評議員会

第1回 平成19年 5月10日(木) 愛知厚生年金会館

参加者32名

第2回 平成19年12月 3日(月) 東桜会館

参加者20名

第3回 平成20年 5月16日(金) 愛知厚生年金会館

(平成20年度支部総会開催日)

### 1.3 幹事会

第1回 平成19年 4月 3日(火) 中電若竹クラブ

参加者12名

第2回 平成19年 6月11日(月) 中電若竹クラブ

参加者 9名

第3回 平成19年10月 3日(水) 中電若竹クラブ

参加者10名

第4回 平成19年11月26日(月) 中電若竹クラブ

参加者10名

第5回 平成21年 1月21日(月) 中電若竹クラブ

参加者10名

### 1.4 電気関係学会東海支部連合大会 共催1回

期 日:平成19年9月27日(木)、28日(金)2日間

会 場:信州大学 若里キャンパス

主担当学会:電気学会東海支部

特別講演:平成19年9月27日(木)16:30 ~ 17:30

「風林火山ゆかりの城下町松代の歴史文化とまちづくり」

香山 篤美氏(NPO法人 夢空間 事務局長)

#### 情報処理学会東海支部からの実行委員

副委員長:長谷川全司(東邦ガス情報システム)

委員(4名):岩田 彰(名古屋工業大学)

本谷 秀堅(名古屋工業大学)事務局兼任

菱田 隆彰(愛知工業大学)

安川 博(愛知県立大学)

幹事(4名):荒木 円博(豊田中央研究所)

内藤 博(中部電力)

高木 一義(名古屋大学)

山村 毅(愛知県立大学)

事務局:本谷 秀堅(名古屋工業大学)

若原 達朗(東邦ガス情報システム)

中谷 正美(情報処理・東海支部)

#### シンポジウムのテーマと世話人(情報処理学会関係分)

・テーマ:「先端的ICT活用によるエコライフ社会の実現へ」

世話人:岩田 彰氏(名古屋工業大学)

・テーマ:「ソフトウェア工学の基礎 ー理論と実践ー」

世話人:大山口通夫氏(三重大学)

企業展示 17件

参加登録者数:合計955名(懇親会参加者105名を含む)

特別講演者:1名

シンポジウム:34名(世話人・座長・講演者)

一般講演者： 479件（オーラルセッション404件、ポスターセッション75件）  
座長： 76名  
一般参加者： 221名  
懇親会： 105名（一般62名、学生38名、招待者5名）  
その他： 39名（実行委員）  
広告・援助企業： 62社

#### 幹事会

第1回 平成19年 4月13日（金）名古屋大学 IB電子情報館北館5F 電気系会議室  
第1回実行委員会に統合  
議題：開催日程・実施概要他  
第2回 平成19年 8月 3日（金）東桜会館 第1会議室  
議題：大会プログラム編成  
第3回 平成19年 9月28日（金）信州大学 総合研究棟1F 小会議室  
議題：運営上の反省点および来年度への申し送り事項

#### 実行委員会

第1回 平成19年 4月13日（金）第1回幹事会に統合  
第2回 平成19年 8月10日（金）名古屋大学 IB電子情報館北館5F 電気系会議室  
第3回 平成20年 1月30日（水）愛知厚生年金会館 奨励賞表彰式・懇親会

#### 大会の特記事項及び主な反省事項

奨励賞等選考数（IEEE学生奨励賞＋B賞＋奨励賞）合計：31名  
審査希望申請者数 合計：303名  
情報処理学会受賞者：6名  
IEEE学生奨励賞 山中 祐司（名城大学）  
" 坂谷 英明（三重大学）  
連合大会奨励賞 長尾 祐樹（中部大学）  
" 三輪 誠（名古屋工業大学）  
" 木谷 佳将（名城大学）  
" 川瀬 考広（名城大学）  
（昨年度は選考数35名、申請者数346名、情報処理学会4名受賞）

#### 次年度以降の予定

##### 平成20年度

会場校：愛知県立大学  
期 日：平成20年9月18日（木），19日（金）  
主担当学会：情報処理学会東海支部

##### 平成21年度（案）

会場校：愛知工業大学  
期 日：未定  
主担当学会：電子情報通信学会東海支部

#### 1.5 講演会 7回（主催7回）

(1) 平成19年5月10日（木）

講師：田中穂積氏（中京大学情報理工学部 教授）

演題：「ソフトウェアロボット — 計算ロボット学」

於：愛知厚生年金会館

参加者 46名

コメント：約10年前に本田技研工業（株）が世界で初めて開発した人間型ロボットをかわきり

に、現在数多くのロボットに関する商品や研究成果が発表されている。本講演では、現在盛んに研究されている「ロボットの技能」ではなく、「ロボットの知能」に着目した「計算ロボット学(computational robotics)」について、科研費の学術創成研究(2001～2005)での成果を中心にご講演いただいた。「計算ロボット学」という言葉は、講師の田中先生が広めようとしている新しい言葉で、計算機の能力を使って音声・言語、認知科学、CGの技術を融合した、いわばロボットの「知能」の開発を目的とする研究分野である。具体的には、計算機上にソフトウェアロボットを実現し、それを用いて対話理解、計画立案能力などに関する研究を行なうものである。ロボットの知能を実現するためには、哲学、心理学、言語学などの文系学問から、ロボティクス、人工知能、計算科学など理系学問まで学際的研究が必要であり、解決すべきひとつひとつの問題へのアプローチに大変な苦勞をされていることがうかがえた。特に、普段人間が行なっている何気ない会話の中に多くの曖昧さが含まれ、それをロボットに論理的に理解させることの困難さがよくわかった。

(2) 平成19年7月10日(火)

講師：長尾 確氏 (名古屋大学 情報メディア教育センター 教授  
／情報科学研究科 メディア科学専攻 併担)

演題：「Webコンテンツの高度利用 ―アノテーションとトランスコーディング―」

於：名古屋大学 IB電子情報館 東棟 大講義室 参加者 42名

コメント：Webコンテンツの意味を考慮した利用の仕組みについて、実例をスクリーン上で動かしながら分かりやすく解説された。その基礎となるのは、コンテンツの意味を考える仕組み―アノテーション―と、コンテンツをユーザに適合させる仕組み―トランスコーディング―である。特に、一般公開しているビデオアノテーションシステムについて、機能と方向性を説明された。近年よく耳にする Semantic Web や Web2.0 のような、抽象的、理想的なレベルのものではなく、知的な処理を支援するサーバを用いて Web コンテンツを構造化し、現在の Web に付加価値を与えより使いやすくする技術と捉えられる。この技術の位置付け、実際の運用におけるフィルタリング、管理コストなどに関する活発な質疑応答が行なわれた。

(3) 平成19年10月23日(火)

講師：小澤 和弘氏 (岐阜県立看護大学 講師)

演題：「医療情報システムと情報セキュリティ」

於：愛知工業大学 八草キャンパス 8号館201教室 参加者 22名

コメント：医療・看護の現場において情報化が進みつつある昨今、本講演では電子カルテシステム、看護記録システムなどの医療分野における情報システムについて実例を交えて紹介をしていただいた。また、医療分野における情報化の流れや医療情報システムに必要な情報セキュリティの要件についての解説をしていただいた。実際に医療現場においては様々な部署で多くの個人情報を取り扱われている。国の施策として情報のデジタル化は徐々に進行してはいるものの普及を促進させるためにはかなり困難が伴っている様子がうかがえた。また、法律やガイドラインなども流動的な部分やまだ整備されきっていない部分があるものの、医療の情報の電子化オンライン化に向けて進められていることが紹介された。これらのガイドラインなどにはセキュリティやプライバシーにかかわる技術的な側面にも触れられており、医療情報の技師の資格制度の確立など医療情報システムを管理・運用を行うための人材育成が重要視されていることが示された。

(4) 平成19年11月15日(木)

講師：竹内 義則氏 (名古屋大学情報連携統括本部情報戦略室 准教授)

演題：「画像処理による物体追跡」

於：愛知県立大学学術文化交流センター 小ホール 参加者 68名

コメント：画像処理を用いて物体を追跡する研究についてご講演いただいた。人間は視線を移動させて移動する物体を追跡することができるが、同様の機能を持った追跡システムが実現できれば、防犯監視装置やテレビジョン放送分野など幅広い応用が期待できる。講師の竹内先生は、この分野において精力的に研究をしてきた方で、講演は過去10余年にわたって行った研究成果を分かりやすくまとめたものである。講演では、まず、はじめに画像処理の基礎について簡単に述べられた後、(1)人間の振る舞いを模倣した移動物体の追跡手法、(2)複数台のカメラの連携による移動物体の追跡手法、(3)規則的運動をする物体の追跡手法、(4)滑らかに物体を抽出する方法、(5)複数のカメラを用いた複数物体の追跡手法、について要点を絞ってやや詳しく説明された。また、それぞれの手法を用いて作成した実システムの動作のビデオでは、カメラがまるで人間のように物体を追跡する様子が映し出され、その技術レベルの高さに驚かされた。活発な質疑応答が交わされただけでなく、講演終了後に研究内容について熱心に質問する参加者も見られた。

(5) 平成19年12月3日(月)

講師：和田 浩之氏 (中部電力(株) 土木建築部 建築グループ 主任)

演題：「アフリカゾウの会話を覗く」 ～音の可視化技術の可能性～

於：東桜会館1階 第2会議室

参加者 48名

コメント：大規模工事や家庭用電気設備の騒音を評価する研究において、複数ある設備などの音源から対象とする騒音を発生させる機器を特定する必要があり、音を可視化する「音カメラ」が開発された。本講演では、研究概要や開発経緯、実フィールドでの適用事例についてご講演いただき、最後に適用事例の一つとしてアフリカゾウの会話の秘密を探るNHKの番組にご協力された時のお話を、いくつかのエピソードを交えてご紹介いただいた。

音カメラは、5本のマイクと小型カメラを入力とし、マイクに到達する時間差によって音源の位置・大きさ・高低を特定する。そして、この定位された音源を小型カメラでとらえた画像上に色のついた点としてマッピングする。これにより、どこからどのような音が出ているのかを視覚的に捉えることが可能となった。現在では、可聴域だけでなく低周波、超低周波と周波数領域も拡がり、また、動画上にリアルタイムに表示することができる機器が開発されている。今後の応用としては、医療や福祉といった分野だけでなく、地震・津波の予知などの防災面や音響調査など、実に幅広い分野への適用が期待でき、今後の「音を見る」技術の可能性を実感することができた。

(6) 平成20年1月16日(水)

講師：李晃伸氏 (名古屋工業大学大学院工学研究科 准教授)

演題：「実環境で柔軟な対話を実現するキャンパス音声情報案内端末の構築」

於：名古屋工業大学 2号館 F2教室

参加者 49名

コメント：音声対話システムについて、その原理から実証実験の解析結果にいたるまでを解説していただいた。質疑応答も活発になされ、盛況であった。

(7) 平成20年2月19日(火)

講師：吉川 大弘 (名古屋大学大学院工学研究科計算理工学専攻 准教授)

演題：「データの可視化 -可視化技術とその応用研究の紹介-

於：名古屋大学 IB 電子情報館 012講義室

参加者 25名

コメント：データの可視化として、数十～数百の変数からなるデータ(多変量データ)や、構造的でないテキストデータを、人が把握しやすいように要約・図示する手法と、手法の適用事例が紹介された。適用事例では、多変量データとして、市場調査結果(アンケート項目が変数に相当)や看護師勤務表作成問題の解(問題で考慮すべき要因が変数に相当、解の数が一万を超える)、テキストデータとして、病院でのヒヤリハット事例集などが取り上げられた。手法としては既存の手法の代表的なもの、講師らの手法が紹介された。紹介された手法を大別すると、データを主成分分析などにより2個の変数で近似し2次元平面

に図示する手法、件数の多いデータをグループ化するクラスタ分析などの手法、および単語の共起頻度に基づいた単語のグラフ構造化手法の3種類であった。このうちグラフ構造化はテキストデータに、残り2つは多変量データ、テキストデータどちらにも適用される。講演でポイントだったのは、適用事例の紹介だった。いずれの事例も、共同研究相手の企業や病院と、要約・図示した結果を見ながらの密接なやりとりを通じて、有用な知見が得られている。したがって産学共同研究の事例紹介としても、有意義な講演であった。

#### 1.6 研究会他 6回 (協賛6回)

- (1) 平成19年9月25日(火)  
ソフトウェアテスト講演会  
(協賛、主催：名古屋市工業研究所 共催 システム技術研究会)
- (2) 平成19年9月25日(火)～26日(水)  
情報学ワークショップ2007 (第5回)  
(協賛、主催：名古屋大学大学院情報科学研究科  
共催：静岡大学情報学部、愛知県立大学情報科学部)
- (3) 平成20年2月19日(火)、20日(水)  
先端技術フォーラム2008名古屋  
「先進エレクトロニクス技術の展望と課題  
ーディスプレイデバイス開発と環境規制への挑戦ー」  
(協賛、主催：先端技術フォーラム2008名古屋実行委員会)
- (4) 平成20年2月21日(木)、22日(金)  
平成19年度名古屋市工業研究所技術融合化シンポジウム  
(協賛、主催：名古屋市工業研究所 共催：(財)名古屋市工業技術振興協会)
- (5) 平成20年2月29日(金)  
2008年電子署名・認証 利用促進セミナー「『電子署名を使おう!』」  
(協賛、主催：財団法人日本情報処理開発協会)
- (6) 平成20年3月10日(月)  
平成19年度 専門講習会 『高機能アレーアンテナとその応用技術』  
(協賛、主催：社団法人電子情報通信学会、同東海支部)

#### 1.7 平成19年度学生研究発表会助成

前期 申請：0件 後期 申請：0件

#### 1.8 学生論文奨励賞

選定委員会：平成20年4月21日(月) 若竹クラブ

表彰式：平成20年5月16日(金) 於：愛知厚生年金会館

授賞者：	伊藤 将志 君	(いとう まさし)	名城大
	岩瀬 雄祐 君	(いわせ ゆうすけ)	名大
	鈴木 貴史 君	(すずき たかし)	名工大
	竹中 友哉 君	(たけなか ともや)	静大
	林 佑樹 君	(はやし ゆうき)	名大
	宮地 恵佑 君	(みやち けいすけ)	名工大
	宮永 慎太郎君	(みやなが しんたろう)	名工大
	山本 大介 君	(やまもと だいすけ)	名大

(五十音順)

## 2. 平成19年度決算報告

### 2.1 収入の部

(単位：円)

平成19年4月1日～平成20年3月31日

収入科目	平成19年度	
	予算額	決算額
交付金	3,100,000	3,100,000
(本部交付金)	2,540,000	2,540,000
(賛助金還元分)	560,000	560,000
利息	2,000	5,635
前年度繰越金	2,094,416	2,094,416
計	5,196,416	5,200,051

### 2.2 支出の部

支出科目	平成19年度	
	予算額	決算額
1. 事業費	1,680,000	1,354,417
年次総会費	460,000	415,025
講演会・研究会費	280,000	222,306
支部連合大会費	340,000	237,646
支部表彰費	170,000	116,112
支部助成金費	120,000	0
会議費	310,000	363,328
2. 事務費	1,890,000	1,871,517
通信費	30,000	24,150
消耗品費	30,000	41,957
郵便運搬費	10,000	10,225
雑費	30,000	5,985
事務委託費	1,790,000	1,789,200
3. 予備費	1,626,416	
4. 立替金(連合運営資金)		1,000,000
5. 次年度繰越金		974,117
計	5,196,416	5,200,051

### 3. 会計監査報告

### 4. 平成20年度支部役員改選結果報告

選挙期間：平成20年2月1日～平成20年3月3日

A：投票用紙発送数 1, 282件（1月現在会費納入済の正会員および名誉会員）

B：投票数 283票

C：投票率〔B/A〕 22.1%

D：開票結果

役職	候補者氏名	得票数
支部長	いわた 彰 岩田 彰	266
副支部長	そんく 算嗣 孫工 算嗣	257
幹事	いねほり 祐之 岩堀 祐之	249
幹事	おおくほひろたか 大久保弘崇	247
幹事	こじり 智子 小尻 智子	253
監事	あきさ 清滋 阿草 清滋	266

退任者 支部長 長谷川全司（東邦ガス情報システム）  
副支部長 岩田 彰（名工大）  
幹事 高木 一義（名大）  
幹事 菱田 隆彰（愛工大）  
幹事 山村 毅（愛知県立大）  
監事 阿部 圭一（愛工大）

留任者 幹事 荒木 円博（豊田中央研究所）  
幹事 内藤 博（中部電力）  
幹事 本谷 秀堅（名工大）



5. 平成20年度支部役員

(\*新任、\*\*再任、無印2年目)

役員	氏名	所属
支部長	* 岩田 彰	名古屋工業大学
副支部長	* 孫工 昇嗣	セイノー情報サービス
幹事	荒木 円博	豊田中央研究所
	* 岩堀 祐之	中部大学
	* 大久保弘崇	愛知県立大学
	* 小尻 智子	名古屋大学
	内藤 博	中部電力
	本谷 秀堅	名古屋工業大学
監事	* 阿草 清滋	名古屋大学
評議員	浅井 博次	岐阜県情報技術研究所
	有本 昇喜	富士通中部システムズ
	* 伊藤 秀昭	中京大学
	宇佐見庄五	名城大学
	太田 剛	静岡大学
	* 鎌部 浩	岐阜大学
	** 小林 正	富士通デザイン
	近藤 利夫	三重大学
	* 佐藤 淳	名古屋工業大学
	* 椎野 努	愛知工業大学
	柴田 昌宏	沖ソフトウェア
	* 田中 義憲	トヨタ自動車
	年岡 晃一	中部大学
	* 長瀬 進治	中部電力
	* 新田 恒雄	豊橋技術科学大学
	* 林 誠	日立オムロンターミナルソリューションズ
	原 一美	NEC ソフトウェア中部
	彦坂 佳宣	デンソー
	* 水野 徳重	メイテツコム
	三代沢 正	セイコーエプソン
	村瀬 洋	名古屋大学
	安川 博	愛知県立大学
	山本 博章	信州大学
	横森 励士	南山大学
	吉澤 明芳	萩原電気
	* 若原 達朗	東邦ガス情報システム

(五十音順)

## 6. 平成20年度事業計画（案）

6.1 支部総会 平成20年5月16日（金） 愛知厚生年金会館

### 6.2 評議員会 3回

第1回 平成20年 5月16日（金） 愛知厚生年金会館

第2回 平成20年12月中旬（予定）

第3回 平成21年 5月（予定）（平成21年度支部総会開催日）

### 6.3 幹事会 5回

第1回 平成20年 4月 7日（月） 東桜会館

第2回 平成20年 6月 9日（月） 予定

第3回 平成20年10月中旬（予定）

第4回 平成20年11月下旬（予定）

第5回 平成21年 1月中旬（予定）

### 6.4 支部大会（電気関係学会東海支部連合大会として）

期 日：平成20年9月18日（木）、19日（金）2日間

会 場：愛知県立大学

主担当学会：情報処理学会東海支部

### 6.5 講演会 主催6回

(1)平成20年5月16日（金）特別講演

演題：「インターネットの過去と未来」

講師：鈴木 幸一 氏（株式会社インターネットイニシアティブ 代表取締役社長）

於：愛知厚生年金会館

※上記を含め6回開催予定

### 6.6 研究会 随時

### 6.7 学生研究発表会助成

申請対象者：情報処理学会東海支部会員

助成対象：平成20年3月1日～平成21年2月28日の間に開催される研究発表会

申請期間：平成20年2月1日～平成21年2月28日

### 6.8 学生論文奨励賞

募集期間：平成21年1月中旬～3月中旬

選定委員会：平成21年4月中旬

表彰式：平成21年5月（通常総会）

### 6.9 幹事の業務分担について

業務別担当

- ・副支部長：孫工副支部長（支部長のサポート）
- ・総括担当：本谷幹事・岩堀幹事（幹事の取りまとめ、会議資料（案）チェック、事務局補佐）
- ・庶務担当：荒木幹事（総務、議事録作成）
- ・会計担当：内藤幹事（会計管理・事務局監督員）
- ・学生担当：大久保幹事
- ・講演会担当：大久保幹事（講演会開催取りまとめ）
- ・ホームページ担当：小尻幹事（ホームページ掲載・イベント会員案内）本谷幹事（連合大会）

7. 平成20年度予算(案)

7.1 収入の部

(単位：円)

収入科目	平成19年度		平成20年度
	予算額	決算額	予算
交付金	3,100,000	3,100,000	3,150,000
(支部交付金)	2,540,000	2,540,000	2,530,000
(賛助金還元)	560,000	560,000	620,000
雑収入(利息等)	2,000	5,635	3,000
前年度繰越金	2,094,416	2,094,416	974,117
その他(立替金)			1,000,000
収入合計	5,196,416	5,200,051	5,127,117

7.2 支出の部

(単位：円)

支出科目	平成19年度		平成20年度
	予算額	決算額	予算額
1. 事業費	1,680,000	1,354,417	1,730,000
年次総会費	460,000	415,025	460,000
講演会・研究会	280,000	222,306	280,000
連合大会	340,000	237,646	350,000
支部表彰費	170,000	116,112	165,000
支部助成金費	120,000	0	110,000
会議費	310,000	363,328	365,000
2. 事務費	1,890,000	1,871,517	1,920,000
通信費	30,000	24,150	25,000
消耗品費	30,000	41,957	15,000
郵便運搬費	10,000	10,225	10,000
雑費	30,000	5,985	5,000
事務委託費	1,790,000	1,789,200	1,865,000
3. 予備費	1,626,416	-	1,477,117
4. 立替金(連合運営資金)		1,000,000	
5. 次年度繰越金		974,117	
支出合計	5,196,416	5,200,051	5,127,117

8. その他

# 平成19年度収支決算書

平成19年4月1日～平成20年3月31日

(単位：円)


収入科目	決算額	支出科目	決算額
本部交付金	3,100,000	1. 事業費	1,354,417
支部交付金	2,540,000	年次総会費	415,025
賛助金還元	560,000	講演会・研究会費	222,306
前年度繰越金	2,094,416	支部連合大会費	237,646
利息	5,635	支部表彰費	116,112
		支部助成金費	0
		会議費	363,328
		2. 事務費	1,871,517
		通信費	24,150
		消耗品費	41,957
		郵便費	10,225
		雑費	5,985
		事務委託費	1,789,200
		3. 立替金	1,000,000
		4. 次年度繰越金	974,117
合計	5,200,051	合計	5,200,051

## 平成19年度監査報告書

平成20年 4月 2日

社団法人情報処理学会東海支部  
支部長 長谷川 全司 殿

平成19年度 情報処理学会東海支部

監事 阿部 圭  印

平成19年度収支決算書について監査の結果、その適正なことを認めます。

以上